

2026 医学系研究科

ナンバリングコード D2PSY-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:P850001-1) 臨床心理学における倫理 The Ethics of Clinical Psychology	科目区分 臨床研究科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 臨床心理学専 攻博士後期課程
	水準・分野 D2・PSY	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 太田 美里, 橋本 忠行	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×8回+自学自習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 臨床心理学および関連分野における研究倫理と臨床実践上の倫理的配慮について学ぶ。最新の事例や理論に基づく講義を通じて、倫理的な問題についての理解を深める。また、少人数によるグループワークやディスカッションを通じて、受講生自身の専門活動を倫理的観点から省察する機会を提供し、倫理原則を遵守した研究や臨床実践を遂行する能力を養う。			
授業の目的 1. 研究倫理および臨床実践上の倫理的配慮についての知識を深める。 2. 倫理的課題に直面した際に適切に対処できる判断力と実践力を養う。 3. 自身の研究活動および臨床実践を倫理的視点から省察し、改善する能力を身につける。 4. チームでの議論や協働を通じて、多角的な視点から倫理的課題を検討する能力を育成する。			
到達目標 1. 研究倫理および臨床実践の基本的な原則を理解し、それを具体的な活動に適用できる。(DPの①「専門知識と理解」に対応) 2. 倫理的課題に直面した際に、それを分析・解決するスキルを持ち、研究や臨床の現場で活用できる。(DPの②「研究能力・応用力」に対応) 3. 研究者および臨床心理士として、高度な倫理観を持ち、社会的責任を果たせる。(DPの③「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 倫理的問題に関する国際的な基準や多様な文化的背景を理解し、グローバルな視点で実践活動を行える。(DPの④「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 ケーススタディレポート：提供された事例を分析し、倫理的課題と解決策を論述するレポート。(40%) ディスカッションへの貢献：各回の授業で行われるディスカッションにおける積極的な意見表明と、他者へのフィードバック。(30%) 最終レポート：自身の研究または臨床活動における倫理的配慮について省察し、改善策を含めた論述。(30%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 第1回 オリエンテーション (研究倫理と臨床倫理の基本概念) 第2回 研究倫理の歴史と現代的課題 (インフォームド・コンセント、データ管理など) 第3回 臨床実践における倫理的配慮 (守秘義務、クライアントとの関係性など) 第4回 ケーススタディとディスカッション① (研究倫理におけるトラブルとその解決策) 第5回 ケーススタディとディスカッション② (臨床実践上の倫理的問題) 第6回 国際的視点から見た倫理基準 (多文化環境での倫理的対応) 第7回 倫理的ジレンマにおける意思決定プロセス (事例を基にしたグループ討論) 第8回 最終課題発表とフィードバック (倫理的配慮を実践する計画の提案) 【教員の研究分野】 橋本 忠行 心理査定、臨床研究における倫理 太田 美里 心理面接、臨床心理学的地域援助における倫理			
事前学習 (15時間) 提供された事例や課題に関連する文献を事前に読み込み、ディスカッションに向けて意見を整理する。			

2026 医学系研究科

事後学習 (30時間)

授業で議論した内容を振り返り、自身の研究や臨床活動における倫理的配慮の改善点を考察する。

教科書・参考書等

APA Ethical Principles of Psychologists and Code of Conduct

最新の研究倫理及び臨床倫理に関する論文、学会の倫理綱領

オフィスアワー

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード D3PSY-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:P850002-1) 臨床心理学講究 Research into Clinical Research	科目区分 臨床研究科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 臨床心理学専 攻博士後期課程
	水準・分野 D3・PSY	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 太田 美里, 川人 潤子, 神原 憲治, 坂中 尚哉, 竹森 元彦, 谷渕 真也, 野口 修司, 橋本 忠行, 長谷 綾子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 臨床心理学分野や近接する諸分野において最先端の実践及び研究を行っている学内外の専門家により、それぞれの分野、あるいは分野をまたいで行う共同実践、共同研究に関する最新の話題を提供する。学内外における学会・研修会等によるコンテンツを複数提供し、受講生は、それらの中から選択し参加する。選択にあたっては、自分の研究分野だけでなく、他の研究分野のコンテンツからも選択するようにする。担当教員は、話題提供者のオーガナイズを行う。講義形式であるが、少人数によるグループワーク等も実施する。			
授業の目的 受講生が自分の研究分野や他の研究分野の先端的取り組みや専門家に触れることにより、現場の実践力と研究能力、プレゼンテーションスキルを磨くことを目的とする。また、最新の知見を共有し、実践と研究を統合する力を育成する。			
到達目標 1. 臨床心理学の理論と実践に関する高度な知識を深め、それを自分自身の実践や研究に活かして、専門家としての視点から複雑な心理的課題に対応できる。(DPの①「専門知識と理解」に対応) 2. 臨床実践と研究の統合を目指し、理論的背景に基づいた実践を計画・実施・評価できる。(DPの②「研究能力・応用力」に対応) 3. 高度な倫理観を持ち、実践者・研究者としての社会的責任を自覚し行動できる。(DPの③「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 先端的の実践や研究を多角的視点から議論し、その成果を的確に発信できる。(DPの④「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 学会・研修会参加レポート(5回以上):参加目的、内容、自身の実践や研究との関連性を明記したレポート。(40%) ディスカッションへの貢献:他の受講者のレポートや意見をもとにした議論への積極的参加と建設的な意見の提供。(20%) 最終発表:授業の内容を基に、今後の自分自身の専門的活動への応用と統合したプレゼンテーション(40%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 第1回 オリエンテーション 授業の概要と学会・研修会参加の意義、方法の説明 第2回～第4回 学会、研修会への参加① 学会や研修会の内容を調査し、授業担当者の助言を受けながら適切な参加計画を立てる。 参加した学会や研修会の参加レポートを作成する。レポートには、参加目的、内容、自身の実践や研究との関連性を含む。 第5回～第6回 成果報告とディスカッション① 各受講生が学会、研修会に参加した成果を報告する。 他の受講生と意見交換を行い、最先端の取り組みや知見について多角的な視点から理解を深める。 第7回～第9回 学会、研修会への参加② 第10回～第11回 成果報告とディスカッション② 第12回～第13回 最終発表準備(構成、資料作成、リハーサル) 第14回～第15回 最終発表 授業で学んだ内容と今後の自分自身の専門的活動への応用とを統合したプレゼンテーションを行う。 フィードバックを受け、今後の実践や研究に向けた課題を明確化する。			

【教員の研究分野】

川人 潤子

認知行動療法、心理教育、産業心理学

野口 修司

家族心理学、災害支援、ブリーフセラピー

橋本 忠行

心理アセスメント、協働的/治療的アセスメント

太田 美里

被害者支援、トラウマケア

竹森 元彦

事例研究、スクールカウンセリング、福祉心理学

坂中 尚哉

深層心理学、臨床スポーツ心理学、表現療法

谷渕 真也

コミュニティ・アプローチ、多文化共生、行動療法、学生相談

長谷 綾子

多職種連携、スーパーヴィジョン、学生相談

神原 憲治

心身医学、応用精神生理学、内科学

事前学習（30時間）

学会・研修会の事前調査を行い、講演内容に関する文献を精読し、質問や議論の材料を整理する。

事後学習（30時間）

学会、研修会で気づいたこと、改めて考えたこと、学んだことなどを、取得した資料とともに整理しておく。

授業中のディスカッション内容を整理し、自身の実践や研究に適用する計画を立案する。

教科書・参考書等

最新の学会誌、その他の文献は適宜情報提供する。

オフィスアワー

授業時間の後の時間に質問・相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード D3PSY-ABCM-40-Ef 授業科目名 (講義コード:P850003-1) 臨床心理学プロジェクト研究 Clinical Research Project Research	科目区分 臨床研究科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 2年次 臨床心理学専攻 博士後期課程
	水準・分野 D3・PSY	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ef	単位数 2	
担当教員名 太田 美里, 川人 潤子, 神原 憲治, 坂中 尚哉, 竹森 元彦, 谷淵 真也, 野口 修司, 橋本 忠行, 長谷 綾子	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 主指導教員または他の教員は、自らが主導する研究プロジェクトに学生を参加させ、研究目的の達成に向けた活動や協働を指導する。教員は、研究計画の立案、データ収集・分析、成果のまとめ、社会への還元に至るまでの全過程を学生に経験させることで、先端的な研究スキルの修得を促すとともに、個人の成果とチームとしての成果を両立させる能力を育成する。さらに教員は、他分野の教員や学生との交流の機会を提供し、多角的な視点の獲得を支援するとともに、研究活動を心理職養成に応用するスキルの向上を図る。			
授業の目的 1. 臨床心理学の研究における高度なスキルを習得し、専門家として独自の研究を推進できる能力を育成する。 2. 研究プロジェクトを通じて、計画立案から成果発表までの一連のプロセスを実践し、実験や調査の精度を高める能力を養う。 3. 他分野との連携を通じて、多角的な視点で課題を捉え、社会に貢献する研究成果を生み出す。 4. 研究者としての倫理観を涵養し、社会的責任を果たしつつ、研究成果を効果的に発信する力を身につける。			
到達目標 1. 研究プロジェクトの立案、実施、評価を一貫して行い、臨床心理学分野における実践的な研究を遂行できる (DPの①「専門知識と理解」に対応) 2. データ収集・分析から成果の社会的応用まで、研究プロセスを論理的かつ体系的に進められる。(DPの②「研究能力・応用力」に対応) 3. 研究の各段階で倫理的配慮を徹底し、社会的責任を自覚して活動できる。(DPの③「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 他分野との協働を通じて、多角的な視点から研究を発展させ、国際的な視野を広げる。(DPの④「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 プロジェクト研究報告書：プロジェクトの立案、実施、結果および考察と、それぞれにおける自身の貢献をまとめた報告書。(40%) ディスカッションへの貢献：プロジェクト活動中の議論への積極的参加と、他者への建設的なフィードバック。(20%) 最終発表：プロジェクトで得た研究成果を統合し、社会的意義や将来の課題を含めた発表。(40%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 第1回 オリエンテーション(研究プロジェクトの概要説明と振り分け) 第2回～第3回 文献レビューと研究テーマの精査(研究背景の検討) 第4回～第6回 研究計画の具体化(デザイン、方法、倫理的配慮の検討) 第7回～第10回 データ収集・分析(調査・実験の実施と進捗報告) 第11回～第12回 研究成果のまとめ(データの整理と考察、社会的応用の検討) 第13回～第14回 最終発表の準備(資料作成、リハーサル) 第15回 最終発表(研究成果の発表とフィードバック) 【教員の研究分野】 川人 潤子 認知行動療法、心理教育、産業心理学 野口 修司			

2026 医学系研究科

家族心理学、災害支援、ブリーフセラピー

橋本 忠行

心理アセスメント、協働的/治療的アセスメント

太田 美里

被害者支援、トラウマケア

竹森 元彦

事例研究、スクールカウンセリング、福祉心理学

坂中 尚哉

深層心理学、臨床スポーツ心理学、表現療法

谷渕 真也

コミュニティ・アプローチ、多文化共生、行動療法、学生相談

長谷 綾子

多職種連携、スーパーヴィジョン、学生相談

神原 憲治

心身医学、応用精神生理学、内科学

【研究プロジェクトの例】(令和6年3月時点)

- ・対面およびオンラインの模擬カウンセリングにおけるカウンセラーとクライアントの視線傾向の基礎的検証
- ・離島の移住者を対象とした心理社会的適応に関する調査
- ・離島移住者を対象とした遠隔心理支援サービス (telepsychological services) の展開
- ・食物への注意バイアス修正訓練の効果の検討
- ・心理職養成における多文化カウンセリング能力訓練プログラムの開発
- ・心理職養成課程における多職種協働実践力を育む実習プログラム及び評価方法の開発
- ・犯罪被害による同胞との死別を経験したきょうだいの回復に関する研究
- ・薬物依存症を抱える女性の「身体感覚」に着目した依存症回復支援の検討
- ・PE療法にバイオフィードバック法を併用したPTSD治療の開発
- ・出生コホート調査と比較する低出生体重児の味覚特性
- ・大学間ネットワークによる災害心理社会的支援システムの構築と活用に関する研究
- ・解決構築度尺度を用いた生体腎ドナーのHRQOL低下予防法の開発
- ・家族に焦点化した災害時の心理支援に関するガイドラインの作成
- ・小児がん経験者の復学・社会復帰の在り方から構築するサポートプログラムの開発
- ・高齢者の運転能力維持向上のための効果的な健康運動・身体活動実践

事前学習 (30時間)

プロジェクトに関連する学術文献を精読し、内容を整理するとともに議論の材料を準備する。

事後学習 (30時間)

研究プロジェクトへの参加で得た知見を整理し、自身の研究・実践にどう応用するかを考察する。

教科書・参考書等

プロジェクト内容に応じて、関連する最新の文献や学会誌を適宜指定する。

オフィスアワー

授業時間の後の時間に質問・相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード D3PSY-ABCM-40-Ep 授業科目名 (講義コード:P851001-1) 臨床心理学高度実践 I Advanced Clinical Psychology Practice 1	科目区分 臨床実践科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 臨床心理学専 攻博士後期課程
	水準・分野 D3・PSY	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Ep	単位数 2	
担当教員名 太田 美里, 川人 潤子, 神原 憲治, 坂中 尚哉, 竹森 元彦, 谷渕 真也, 野口 修司, 橋本 忠行, 長谷 綾子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 教員は、受講生が臨床心理学に基づく自己省察能力を高めるとともに、クライアントやコミュニティの背景や問題の特性を的確に整理し、論理的かつ効果的に説明する事例発表の技能を修得できるよう指導する。教員は、受講生が自ら担当した心理面接、心理査定、臨床心理学的地域援助の事例を、事例検討会、グループスーパーヴィジョン、個人スーパーヴィジョンにおいて共有させ、修士課程の院生、他の受講生、教員からのフィードバックを通じて、臨床実践における課題を多角的に捉える力を育成し、臨床心理士としての専門性の向上を支援する。さらに教員は、その成果を学会や研修会で発表する機会を提供し、発信力の向上を図る。			
授業の目的 1. 自己省察を通じて、臨床心理学における実践力と倫理的配慮を深める。 2. クライアントの状態や介入の意義を、理論に基づき論理的に説明できる能力を養う。 3. 事例発表を通じて、効果的なコミュニケーションスキルと問題解決能力を向上させる。 4. 臨床心理学の実践課題を他者と共有し、多角的な視点で考察する力を育成する。			
到達目標 1. 臨床心理学の理論に基づいて、自らの臨床実践を省察し、適切な改善案を提案できる。(DPの①「専門知識と理解」に対応) 2. 事例発表において、他者の意見を踏まえながら多角的な視点で事例を分析できる。(DPの②「研究能力・応用力」に対応) 3. 事例発表において、論理的かつ効果的な説明を行い、臨床心理士としての倫理的責任を果たせる。(DPの③「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 事例発表：発表の内容(事例の整理、論理性、プレゼンテーション技術)、資料の質、フィードバックへの応答を総合的に評価する。(40%) 他者の事例へのフィードバック：他の受講生が発表した事例に対する建設的な意見提供の質を評価する。(20%) 最終報告書：1年間の臨床心理学的援助の実践内容をまとめ、そこから得た学びと今後の臨床実践への応用可能性を考察した報告書の評価する。(40%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 第1回 オリエンテーション(事例発表の重要性、発表の構成と資料作成のポイント) 第2回 事例発表スキルの学習①(クライアント背景情報、主訴の説明、見立てと方針) 第3回 事例発表①(受講生1名による発表とディスカッション) 第4回 スーパーヴィジョン①(グループ/個人) 第5回 事例発表スキルの学習②(見立てと方針と事例の経過) 第6回 事例発表②(受講生1名による発表とディスカッション) 第7回 スーパーヴィジョン②(グループ/個人) 第8回 事例発表スキルの学習③(理論的省察と個別性への配慮) 第9回 事例発表③(受講生1名による発表とディスカッション) 第10回 スーパーヴィジョン③(グループ/個人) 第11回 事例発表スキルの学習④(学会や研修会で発表する際の倫理的配慮、フィードバックの活用) 第12回 事例発表④(受講生1名による発表とディスカッション) 第13回 スーパーヴィジョン④(グループ/個人)			

2026 医学系研究科

第14回 まとめ（最終報告書の作成）

第15回 まとめのディスカッション（最終報告書を用いた振り返りと今後の課題の検討）

第1回で、受講生の臨床実践の専門領域に応じて、主たる臨床指導教員1名を選択する。

スーパーヴィジョンでは主に主たる臨床指導教員からフィードバックを受け、事例発表では複数の教員からフィードバックを受ける。

【教員の研究分野】

川人 潤子

認知行動療法、心理教育、産業心理学

野口 修司

家族心理学、災害支援、ブリーフセラピー

橋本 忠行

心理アセスメント、協働的/治療的アセスメント

太田 美里

被害者支援、トラウマケア

竹森 元彦

事例研究、スクールカウンセリング、福祉心理学

坂中 尚哉

深層心理学、臨床スポーツ心理学、表現療法

谷渕 真也

コミュニティ・アプローチ、多文化共生、行動療法、学生相談

長谷 綾子

多職種連携、スーパーヴィジョン、学生相談

神原 憲治

心身医学、応用精神生理学、内科学

事前学習（30時間）

発表予定の事例について詳細な記録を作成し、授業で議論するための資料を準備する

事後学習（30時間）

授業で受けたフィードバックを基に、自らの事例分析を深め、次回の発表に備える

教科書・参考書等

事例研究の考え方と戦略（山本 力、2018、創元社）

最新の学会誌、その他の文献は適宜情報提供する。

オフィスアワー

授業時間の後の時間に質問・相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード D4PSY-ABCM-40-Ep 授業科目名 (講義コード:P851002-1) 臨床心理学高度実践Ⅱ Advanced Clinical Psychology Practice 2	科目区分 臨床実践科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 2年次 臨床心理学専 攻博士後期課程
	水準・分野 D4・PSY	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Ep	単位数 2	
担当教員名 太田 美里, 川人 潤子, 神原 憲治, 坂中 尚哉, 竹森 元彦, 谷渕 真也, 野口 修司, 橋本 忠行, 長谷 綾子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 教員は、受講生が臨床心理学に基づく事例発表へのフィードバック力および事例研究能力を向上させるよう指導する。教員は、事例発表会において受講生が発表者およびフロアの双方の役割を担う機会を設け、事例の多角的な分析と建設的な議論を促進する。さらに教員は、教員や専門家によるスーパーヴィジョンの機会を提供し、新たな視点やより深い洞察の獲得を支援する。これにより教員は、発表スキルやフィードバック技術の向上を図るとともに、臨床心理学の理論と実践の統合を促進する。			
授業の目的 1. 事例発表を通じて、論理的かつ効果的に事例を分析・説明する能力を養う。 2. 他者の発表に対する建設的なコメントやフィードバックを行う技術を習得する。 3. スーパーヴィジョンを通じて、事例の分析や発表を深化させ、研究的視点を養う。 4. 事例研究を体系化し、実践的な課題解決能力を向上させる。			
到達目標 1. 発表者として、臨床心理学の理論を用いて事例を論理的に整理し、発表できる。(DPの①「専門知識と理解」に対応) 2. フロアとして、発表者の事例に対して建設的な意見や新たな視点を提示できる。(DPの②「研究能力・応用力」に対応) 3. スーパーヴィジョンを通じて、事例研究の方法や視点を深化させる。(DPの③「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 多角的な視点を通じて、事例研究を学術的かつ実践的に展開できる。(DPの④「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 事例発表：発表の構成、分析の深さと適切さ、フィードバックへの対応を総合的に評価する。(40%) 他者の事例へのフィードバック：他の受講生が発表した事例に対する批判的かつ建設的なフィードバックと議論への貢献度を評価する。(20%) 最終報告書：1年間の臨床心理学的援助の実践内容をまとめ、そこから得た学びと事例研究における課題とその改善案を考察した報告書の評価する。(40%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 第1回 オリエンテーション (授業の進め方と目的) 第2回 フィードバックと事例研スキルの学習① (発表とフィードバックの心得) 第3回 事例発表① (受講生1名による発表とディスカッション) 第4回 スーパーヴィジョン① (グループ/個人) 第5回 フィードバックと事例研スキルの学習② (専門領域を超えたフィードバックの工夫) 第6回 事例発表② (受講生1名による発表とディスカッション) 第7回 スーパーヴィジョン② (グループ/個人) 第8回 フィードバックと事例研スキルの学習③ (職業倫理と事例の扱い) 第9回 事例発表③ (受講生1名による発表とディスカッション) 第10回 スーパーヴィジョン③ (グループ/個人) 第11回 フィードバックと事例研スキルの学習④ (事例研究の方法論と意義) 第12回 事例発表④ (受講生1名による発表とディスカッション) 第13回 スーパーヴィジョン④ (グループ/個人) 第14回 フィードバックと事例研スキルの学習⑤ (事例論文執筆のプロセス)			

2026 医学系研究科

第15回 まとめディスカッション（最終報告書を用いた振り返りと今後の課題の検討）

第1回で、受講生の臨床実践の専門領域に応じて、主たる臨床指導教員1名を選択する。

スーパーヴィジョンでは主に主たる臨床指導教員からフィードバックを受け、事例発表では複数の教員からフィードバックを受ける。

【教員の研究分野】

川人 潤子

認知行動療法、心理教育、産業心理学

野口 修司

家族心理学、災害支援、ブリーフセラピー

橋本 忠行

心理アセスメント、協働的/治療的アセスメント

太田 美里

被害者支援、トラウマケア

竹森 元彦

事例研究、スクールカウンセリング、福祉心理学

坂中 尚哉

深層心理学、臨床スポーツ心理学、表現療法

谷渕 真也

コミュニティ・アプローチ、多文化共生、行動療法、学生相談

長谷 綾子

多職種連携、スーパーヴィジョン、学生相談

神原 憲治

心身医学、応用精神生理学、内科学

事前学習（30時間）

発表予定の事例について詳細な記録を作成し、授業で議論するための資料を準備する

事後学習（30時間）

授業で受けたフィードバックを基に、自らの事例分析を深め、次回の発表に備える

教科書・参考書等

事例研究の考え方と戦略（山本 力、2018、創元社）

最新の学会誌、その他の文献は適宜情報提供する。

オフィスアワー

授業時間の後の時間に質問・相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード D4PSY-ABCM-40-Ep 授業科目名 (講義コード:P851003-1) 臨床心理学高度実践Ⅲ Advanced Clinical Psychology Practice 3	科目区分 臨床実践科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 3年次 臨床心理学専 攻博士後期課程
	水準・分野 D4・PSY	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Ep	単位数 2	
担当教員名 太田 美里, 川人 潤子, 神原 憲治, 坂中 尚哉, 竹森 元彦, 谷渕 真也, 野口 修司, 橋本 忠行, 長谷 綾子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 教員は、臨床心理士および公認心理師の指導者としての資質を高めることを目的として、受講生に事例発表会にお ける発表者およびフロアの役割を担わせ、スーパーヴィジョンを実施する。教員は、発表者として事例を論理的かつ 効果的に整理・説明するスキルの修得を指導し、フロアとして他者の事例に対して建設的なフィードバックを行い、 議論をリードする能力の育成を図る。また教員は、自らのスーパーヴィジョンに受講生を陪席させることで、実践的 な指導力の修得を支援する。これにより教員は、指導者としての分析力、提案力、倫理的判断力、リーダーシップの 向上を図り、実践現場における他者支援およびチーム運営に必要な専門性の確立を促す。			
授業の目的 1. 指導者として、事例を多角的に分析し、適切な指導方針を立てる事例分析能力を高める 2. 他者の事例に対して、具体的かつ実践的な提案を行い、建設的な議論を促進する能力を高める 3. 守秘義務や二重関係など、倫理的配慮を含めた適切な指導を実践できる態度を身につける 4. チームの一員として他者を支援しつつ、リーダーとして議論をまとめ、効果的な問題解決を図るスキルを習得す る			
到達目標 1. 臨床心理士や公認心理師の指導者として、事例を論理的に整理し、他者を効果的に指導できる能力を身につける。 (DPの①「専門知識と理解」に対応) 2. 他者の事例に対して多角的な視点から分析し、具体的かつ建設的なフィードバックを提供できる。(DPの②「研究 能力・応用力」に対応) 3. 指導者として、臨床心理学の倫理的原則を実践し、指導過程での適切な判断ができる。(DPの③「倫理観・社会的 責任」に対応) 4. チームの一員およびリーダーとして、コミュニケーションスキルを発揮し、協働的な問題解決を導ける。(DPの④ 「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 事例発表とフィードバック：発表内容の論理性、事例分析の深さ、プレゼンテーションスキル、質疑応答対応を総合 的に評価する。(20%) (到達目標 1, 2に対応) スーパーヴィジョンに関するレポート：自分自身が受けたスーパーヴィジョンとスーパーヴィジョンの陪席の経験 から、指導者としての課題を考察した毎回のレポートを評価する。(40%) (到達目標 3に対応) 最終報告書：1年間の臨床心理学的援助の実践内容と授業内容をまとめ、指導者としての課題と自己研鑽の計画をま とめた報告書を評価する。(40%) (到達目標 3, 4に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおり とする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 第1回 オリエンテーション (授業の進め方と目的、指導者の役割) 第2回 指導者としての事例分析とフィードバック技術の学習 (基本スキルの確認) 第3回 事例発表① (受講生1名による発表とディスカッション) 第4回 スーパーヴィジョン① (グループ/個人/陪席) 第5回 事例検討スーパーヴィジョンに関するグループ討議① 第6回 指導者としての倫理的配慮 (守秘義務、多重関係、権限の適切な行使) 第7回 事例発表② (受講生1名による発表とディスカッション) 第8回 スーパーヴィジョン② (グループ/個人/陪席) 第9回 事例検討とスーパーヴィジョンに関するグループ討議②			

2026 医学系研究科

第10回 他者支援スキルとリーダーシップ（建設的対話の進め方、協働的問題解決）

第11回 事例発表③（受講生1名による発表とディスカッション）

第12回 スーパーヴィジョン③（グループ/個人/陪席）

第13回 事例検討とスーパーヴィジョンに関するグループ討議③

第14回 ケースカンファレンス（全体討論と指導者としての総括）①

第15回 まとめのディスカッション（最終報告書を用いた振り返りと今後の課題の検討）

第1回で、受講生の臨床実践の専門領域に応じて、主たる臨床指導教員1名を選択する。

スーパーヴィジョンでは主に主たる臨床指導教員からフィードバックを受け、事例発表では複数の教員からフィードバックを受ける。

【教員の研究分野】

川人 潤子

認知行動療法、心理教育、産業心理学

野口 修司

家族心理学、災害支援、ブリーフセラピー

橋本 忠行

心理アセスメント、協働的/治療的アセスメント

太田 美里

被害者支援、トラウマケア

竹森 元彦

事例研究、スクールカウンセリング、福祉心理学

坂中 尚哉

深層心理学、臨床スポーツ心理学、表現療法

谷渕 真也

コミュニティ・アプローチ、多文化共生、行動療法、学生相談

長谷 綾子

多職種連携、スーパーヴィジョン、学生相談

神原 憲治

心身医学、応用精神生理学、内科学

事前学習（30時間）

発表予定の事例について詳細な記録を作成し、授業で議論するための資料を準備する

事後学習（30時間）

授業で受けたフィードバックを基に、自らの事例分析を深め、次回の発表に備える

教科書・参考書等

専門領域に応じたスーパーヴィジョンのテキスト、論文について情報提供する。

最新の学会誌、その他の文献は適宜情報提供する。

オフィスアワー

授業時間の後の時間に質問・相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード D4PSY-ABCM-40-Ep 授業科目名 (講義コード:P852001-1) 特別研究 Special Study	科目区分 特別研究	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 臨床心理学専 攻博士後期課程
	水準・分野 D4・PSY	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Ep	単位数 6	
担当教員名 川人 潤子. 神原 憲治. 坂中 尚哉. 竹森 元彦. 谷渕 真也. 野口 修司. 橋本 忠行. 長谷 綾子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×45回 (準備学習90時間+事後学習90時間)			
授業の概要 臨床心理学分野における研究遂行能力を育成することを目的として、博士論文作成やその後の研究活動に必要な能力の個別指導を行う。具体的には、研究課題の設定、検討課題の整理、先行研究のレビュー、調査・実験の設計、データ分析手法、論文執筆、発表方法、研究倫理の遵守など、研究全般に必要な知識と技能を習得する。受講生が自立した研究者として活動できるよう、教員複数名が段階的かつ体系的な指導を提供する。			
授業の目的 1. 博士論文および査読論文執筆に必要な研究能力を段階的に身につける。 2. 研究計画の立案からデータ分析、成果の発表まで、一連の研究プロセスに必要な知識と技能を理解し、適用できる。 3. 研究倫理を深く理解し、判断し、価値を認めるとともに、責任ある研究活動を実施することができる。 4. 学術的な議論や発表を通じて、研究成果を効果的に発信することができる。			
到達目標 1. 臨床心理学分野における研究課題を独自に設定し、課題に応じた研究計画を策定できる。(DPの①「専門知識と理解」に対応) 2. データ収集・分析手法を適切に選択し、研究の精度を向上させることができる。(DPの②「研究能力・応用力」に対応) 3. 研究倫理を遵守しつつ、多角的な視点を持った研究を進めることができる。(DPの③「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 課題提出：構想発表会で必要な研究計画書、中間発表会で必要な中間報告書の内容。(30%) (到達目標 1, 2, 3 に対応) ディスカッションへの貢献：グループディスカッションや発表への積極的参加、研究に関する議論の貢献度 (30%) (到達目標 1, 2, 3 に対応) 最終発表：博士論文や査読論文の進捗を基にした最終発表 (40%) (到達目標 1, 2, 3 に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 1年次：研究基盤の構築 第1回 テーマ設定のポイントと研究の意義の理解 第2回 国内外の先行研究の効率的・網羅的収集：文献検索の方法とツールの活用 第3回 先行研究の読み方と批判的レビューの観点および手法 第4回 研究領域の課題の特定と仮説の構築 第5回 研究テーマと先行研究の整理・発表 第6回 調査・実験デザインの基本と適用 第7回 データ収集の手法の選択と設計：定量データおよび定性データ 第8回 研究の倫理的配慮と倫理審査の申請の具体的方法 第9回 研究計画書の作成法と具体的な実施スケジュールの策定法 第10回 研究計画の効果的な発表とフィードバックの活用 第11回 論文の基本構成とセクションごとの役割 第12回 イントロダクションの書き方と研究の位置づけ 第13回 文献管理ツールの活用方法			

2026 医学系研究科

- 第14回 論文執筆における表現の工夫と論理的構成
第15回 研究成果のまとめ方とその研究へのつなげ方
※第10回のあとに「博士論文研究構想発表会」を実施する。
2年次：データ分析能力の向上
第16回 質的データ収集方法（インタビュー、観察法、フィールドワークの基礎と実践）
第17回 量的データ収集方法（質問紙調査、実験法の基礎と実践）
第18回 データ収集ツール（ソフトウェア、オンライン調査ツール）の活用
第19回 データ品質の確保と信頼性・妥当性の確認
第20回 収集したデータの整理と初期の分析法
第21回 基本的な統計分析手法
第22回 多変量解析の基礎と実践
第23回 質的データの分析方法とコーディング
第24回 分析におけるソフトウェアの活用
第25回 分析結果の可視化とレポート作成の技術
第26回 分析結果の要約と論理的整理
第27回 仮説検証とデータに基づく主張の構築
第28回 研究の限界とバイアスに関する考察の基礎と実践
第29回 社会的意義や臨床応用の基礎と実践
第30回 考察セクションの書き方とフィードバックの活用

※第30回のあとに「博士論文研究中間発表会」を実施する。

- 3年次：論文作成と成果発表スキルの向上、学位取得後の自律的研究活動のためのスキル向上
第31回 複数の研究を博士論文としてまとめる際の全体構成の方法
第32回 博士論文の「問題」と「方法」の書き方
第33回 博士論文の「結果」と「考察」の書き方
第34回 文献リスト・参考文献の整理と適切な引用
第35回 論文執筆の実例とフィードバックの活用
第36回 研究成果の伝え方と論理的プレゼンテーションの構成
第37回 視覚的要素を工夫した効果的なスライド作成
第38回 成果発表における話し方の工夫
第39回 質疑応答の準備と対応戦略
第40回 模擬発表と発表スキルの見直し
第41回 専門外の聴衆に伝える技術とストーリーテリングの手法
第42回 研究成果の社会的実装のための発信戦略
第43回 学術コミュニケーションと研究者ネットワークング
第44回 研究資金獲得とプロジェクトマネジメント
第45回 研究を続けるための環境づくりとライフワークバランス

【教員の研究分野】

川人 潤子
認知行動療法、心理教育、産業心理学
野口 修司
家族心理学、災害支援、ブリーフセラピー
橋本 忠行
心理アセスメント、協働的/治療的アセスメント
太田 美里
被害者支援、トラウマケア
竹森 元彦
事例研究、スクールカウンセリング、福祉心理学
坂中 尚哉
深層心理学、臨床スポーツ心理学、表現療法
谷淵 真也
コミュニティ・アプローチ、多文化共生、行動療法、学生相談
長谷 綾子
多職種連携、スーパーヴィジョン、学生相談
神原 憲治
心身医学、応用精神生理学、内科学

事前学習（90時間）

提供される課題や文献を事前に読み込み、授業でのディスカッションに備える。

事後学習（90時間）

授業で得た知見を、自身の研究計画や論文執筆に応用し、研究を遂行する。

教科書・参考書等

最新の臨床心理学研究論文および学術誌を適宜指定する。

2026 医学系研究科

オフィスアワー

授業時間後に質問等に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員の実務経験との関連